

「色覚バリアフリー」とは

日本人の場合、男性の5%、女性の0.2%が色盲と言われています。推定で318万人以上になり、身体障害者の総数を上回る計算になります。

「色盲の人は色が全くない白黒の世界を見ている」と信じている人がいますが、それは誤解です。実際には、特定の色を判別しにくいというだけで（個人差がかなりあります）、それ以外に大きな問題ありません。

しかし伊藤さんは、ここ数年「見えにくいものが急に増えた」と感じるようになったそうです。その背景には、企業、学校、家庭などで手軽にカラー印刷ができるようになったことや、カラー画面を前提としたインターネットが普及したことがあるようです。このまま状況が悪化していけば、手遅れになりかねないとの危機感から、「色覚バリアフリー（＝全ての人に見分けやすい色の表示方法）」の啓蒙活動に取り組み始めたそうです。

旅行会社の

パンフレットは

どう見えるのか？

それでは実際に、伊藤さんに旅行

特別レポート

色覚バリアフリー 旅行パンフレットに バリアはないか？

最近の旅行パンフレットは、雑誌顔負けの豪華なカラー印刷が主流です。なるべく多くの色と文字を使って、可能な限りの情報を詰め込もうとしているかのようです。

しかし、このようなカラフルなパンフレットを、いわゆる「色盲」（※1）の方々は、どのように受け止めているのでしょうか。

そこで編集部では、ご自身も色盲の立場から「色覚バリアフリー」を提唱されている東京大学助教授の伊藤啓さんを訪ね、旅行パンフレットをチェックして頂きました。

編集部取材

パンフレットとしては標準的なサンブル（国内・海外）をチェックして頂きました。（34・35ページを参照）その結果、次のようなご指摘を頂きました。

——色は、①何らかの情報を伝える色（信号機、カレンダーの祝日表示など）、②情報を全く伝えない色、の2つに分類できます。

挿し絵などのイラストや、単なる装飾としてのタイトルや背景の色分けは、その色がきちんと見分けられなくても情報を得るのに支障はないため、「情報を伝えない色」になります。逆に、「何らかの情報を伝える色」の場合、文字による説明や形の違いや網掛けなど色以外の補助的な情報がなければ、色を識別しにくい色盲の人には情報を読みとれません。

そこで、国内旅行のパンフレット（35ページ上段A参照）を見ると、「出発日」に対応した「旅行代金」を、「色」だけを頼りに読み取らなければなりません。これは前述の①に該当し、色覚上のバリアが存在します。さらに、この表では「出発日」と「料金表」の2カ所を見比べながら、色の記憶を頼りに判断する必要があります。この2カ所の距離が離れるほど、色の記憶は曖昧になります。したがって、このような表示方法は、なるべく避けるべきです。——

残念ながら、このパンフレットは、不合格との烙印を押されてしまった

ようです。

この部分が、色盲の人にはどのように見えるかを、色盲シミュレーション・ソフトで加工したのが同じページのB/Dです。読者のみなさんも、見づらさをお分かりいただけるのではないのでしょうか。

一方、海外旅行のパンフレット（34ページ参照）は、色だけで情報を伝えているような部分もなく、色の濃淡を上手に利用しているとの評価でした。しかし、細かな問題点も指摘されました。

一例を示しますと、35ページ中段の図はハワイのオプショナルツアーに関する表です。この表では、色盲の人にはオアフ島とハワイ島の境界線が分かりにくく、間違いの原因になりかねないとのことでした。

「色覚バリアフリー」に向けたポイント

それでは、どうすれば旅行パンフレットは「色覚バリアフリー」になるのでしょうか。いくつかのポイントをアドバイスして頂きましたので、主なものを紹介します。

①「色名」を表示する

「色名」は色盲でない人たちが作り上げた分類ですので、色盲の人の感覚とは大きく異なります。そのため、「色名」を表示していただければ、色盲の人は、その色を「何色と呼ぶ



(※1)「色盲」という言葉には、かつては差別的な響きがあったため、今では使われる機会が少なくなり、代わって「色覚異常」や「色覚障害」という言葉が使われています。しかし、伊藤さんは、むしろこれの方が「正常でない」「害がある」など、誤解を与えかねない言葉だと考えています。そのため伊藤さんは、「正常」とされる人とは異なる色覚を持ち、特定の色が見づらいという事実を表す言葉に最も近い「色盲（盲=見えないという客観的事実を表す）」を、あえて使用しています。

本稿でも、伊藤さんの考え方に添い「色盲」という言葉を使用します。

これに関して詳しく知りたい方は、
「<http://www.nig.ac.jp/color/mou.html>」
をご覧ください。

▶「色名」が表示された料金表

6月							7月							8月							9月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7	6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13
8	9	10	11	12	13	14	13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20
15	16	17	18	19	20	21	20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27
22	23	24	25	26	27	28	27	28	29	30	31	24	25	26	27	28	29	30	28	29	30						
29	30												31														

■旅行代金:大人・子ども(子供I)同額 おひとり (単位:円)

出発日	赤色出発	黄色出発	青色出発	黄緑色出発	紫色出発	棕色出発	桃色出発	紺色出発	灰色出発	緑色出発
4-5名1室	67,800	69,800	72,800	85,800	86,800	93,800	97,800	99,800	119,800	129,800
3名1室	68,800	71,800	73,800	86,800	89,800	95,800	98,800	102,800	121,800	132,800
2名1室	69,800	72,800	74,800	87,800	91,800	97,800	99,800	104,800	123,800	135,800
1名1室 (シングル料金)	84,800	87,800	89,800	102,800	106,800	112,800	114,800	119,800	138,800	150,800

べきか」が分からず、コミュニケーションに支障をきたします。

この問題は、色盲かどうかに関わらず、色名の判断が個人の主観に負うところが大きいことにも起因しています。

たとえば、「薄い青」と「濃い青」の2種類の色を見せて、その色名を答える実験を行うと、回答は「水色」と「青色」と「青色と紺色」に分かれるそうです。

つまり「青(らしき色)」は、見

る人によって「水色」「青色」「紺色」にもなり得るといふことです。「青」を「青色」と表示することで、少なくともこの混乱は回避できます。

特に電話の時などは、パンフレットを直接指し示して説明することはできませんので、聞き手が間違えないよう、どこがどの色なのかを明示しておく必要があります。今秋開始されるデジタルテレビ放送の受像器では、番組の案内に従って視聴者が色ボタンを間違えずに押せるよう、

リモコンの脇に色名が印刷されています。

一部のパンフレットでは、十分とはいえませんが、このような表示がされているものが見受けられました。(上図参照)

② 分かりにくい色の組み合わせは避ける

2色以上を組み合わせる場合は、見やすい組み合わせを選択します。

たとえば、「赤」と「緑」は見づらい色の代表格ですので、同時に組み合わせることは避けま

また、同じ「緑」でも、青味を加えた「エメラルド系(青緑)」、「赤」も「朱赤」の方が見やすくなります。なお、信号機の色も、徐々にこの色に変わりつつあるそうです。

35ページ下段に、見やすい組み合わせと、そうでないものを例示してありますので参考にしてください。

③ 形や明暗などデザインで工夫する

網掛けや明暗差の利用など、デザイン面での工夫も重要です。分かりやすく例えると、「白黒コピーでも判別できる」ようにすることです。

これは実用上も意味があります。たとえば、会社の会議資料に添付する場合、カラーコピーされることは、まだ稀でしょう。また、グループ旅行の参加者同士が、パンフレットをコピーして渡すこともあります。あるいは顧客から、パンフレットをコ

ピーしてFAXで送ってほしいと言われることもあります。こんなとき、「色覚バリアフリー」に対応していれば、重要な情報が抜け落ちることはありません。

「尋ねてくれるなら」は通用しない

圧倒的少数派の色盲の方々のためだけに、そこまでする必要があるのかと思われるかもしれませんが、しかし、団体旅行の責任者や出張に行く人の多くは、依然として男性が中心です。その20人に一人は、確実に色盲です。気がつかないうちに、見づらいパンフレットを渡しているかもしれません。

また、ファクションやその他の理由でサングラスを利用している人がいますが、この方々も色に対する弱者です。その方々に「旅行会社の店頭では、サングラスを外して下さい」とは言えないでしょう。フルムーン旅行などお年寄りには、年を取るほど白内障など眼の病気を持たれる方が多くなります。この方たちも色が見分けにくくなります。

加えて伊藤さんから、次のようなことを教えて頂きました。

——色盲の人の多くは、自分が色盲であることを隠します。アンケート調査でも、「面と向かって自分が色盲とは言えない」という回答の比率

が高くなっています。「分からなければ尋ねてくれるだろう」という常識は、色盲の人には必ずしも通用しないのです。

このことは、職場でも同じことが言えるのではないのでしょうか。

たとえば、最近ではパワーポイントなどカラーの資料を使ったプレゼンが流行ですが、会議の場で、色盲の上司が部下に対して「自分は色盲だから分からない」と言うでしょうか。その場では、「分かった振り」をしてしまうのではないのでしょうか。特に年長者ほど色盲へのコンプレックスが強く、また社内ポジションも上位であることから、その傾向は強くなるでしょう。結局は、そのプレゼンは上司から採用されることなく、あなたの評価すら下げられてしまうかもしれません。取引先が相手のプレゼンであれば、言うに及ばずです。

最初の一人の行動に期待したい

色覚バリアフリーはスロープの設置や介助者の同行など、他のバリアフリーのような特別なコストは必要ありません。必要なものは、少しの知識と心構えです。

伊藤さんは、次のようにも言われます。

——最初の誰か一人が、この色覚バ

リアフリーに気がつき、行動に移してくれたいことを期待しています。業界内のどこか1社でも変われば、他社も連鎖的に変わっていくでしょう。徐々に変わっていった結果、気がついたら色盲であることを感じなくなっている日がくることを望んでいます。

誰もが見やすいと感じる旅行パンフレットを作ることは、社会的責任である以前に、サービス業として、どれだけユーザーの立場に立っているかのバロメータではないのでしょうか。

※本稿では、紙面の都合上「色覚バリアフリー」のすべてを説明することはできません。さらに知識を深めたい方は、以下のホームページなどをご覧ください。

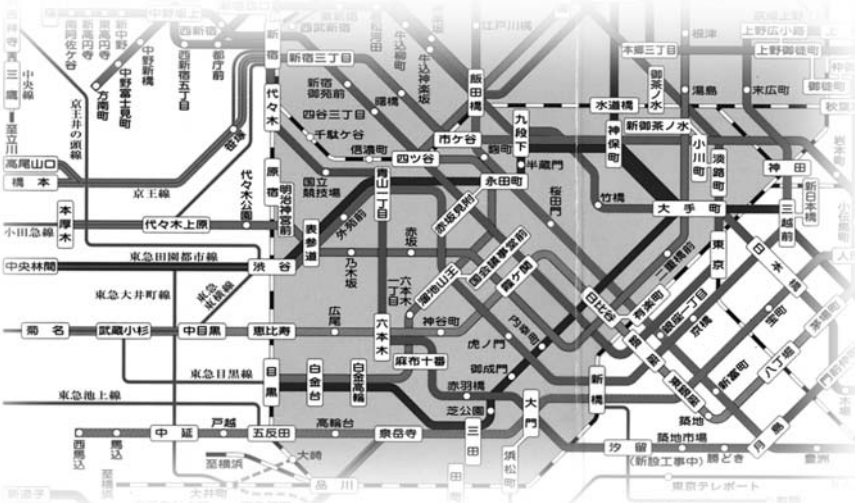
《ホームページ》
「色盲の人にもわかるバリアフリープレゼンテーション法」
URL = <http://www.nig.ac.jp/color/>

《出版物》
「色覚バリアフリーの手引き」
東京都印刷工業組合 墨田支部
電子化教育研究会発行

▼海外旅行のパンフレットの料金表(例)

◆ラスベガス+サンフランシスコ 6・7・8日間 基本旅行代金		ノースウエスト航空								
利用ホテルプラン (ホテル選択) (ホテルコード) (追加ページ)	日数	7/3~11	7/12~16, 8/29~31	7/19~31 の火~金	7/19~31 の土~月, 8/15~17	8/1~7	8/9~11	8/8, 12~14	7/18, 8/18~25	7/17, 8/26~28
ベラジオ (01) (P25)	6	166,800	186,800	233,800	244,600	248,800	269,800	258,800	222,800	185,800
	7	182,800	202,800	249,800	260,600	264,800	285,800	274,800	238,800	201,800
	8	198,800	218,800	265,800	276,600	280,800	301,800	290,800	254,800	217,800
ベネチアン (02) (P27)	6	169,800	188,800	235,800	247,800	250,800	271,800	260,800	224,800	180,800
	7	186,800	205,800	252,800	264,800	267,800	288,800	277,800	241,800	204,800
	8	203,800	222,800	269,800	281,800	234,800	305,800	294,800	258,800	222,800
フォーシーズンズ (03) (P29)	6	169,800	188,800	235,800	247,800	251,800	271,800	261,800	225,800	180,800
	7	186,800	205,800	252,800	264,800	268,800	288,800	278,800	242,800	207,800
	8	203,800	222,800	269,800	281,800	285,800	305,800	295,800	259,800	223,800
シーザパレス (04) (P30)	6	161,800	180,800	227,800	239,800	243,800	263,800	252,800	216,800	171,800
	7	175,800	194,800	241,800	253,800	257,800	277,800	266,800	230,800	185,800
	8	189,800	208,800	255,800	267,800	271,800	291,800	280,800	244,800	209,800

多くの色を使うほど、見分けやすくなると思われがちです。しかし、色彩工学の常識では、日本人の識別可能な色数は、せいぜい4色までで、多くても5~6色だそうです。10色を超えるような図表は、ナンセンスと言われても仕方ありません。



国内旅行パンフレットの一例

※フリーウェアの画像処理ソフト「ImageJ」(http://rsb.info.nih.gov/ij/)と同ソフト用に組み込んで使う色盲シミュレーションソフト(プラグイン)「Vis Check」(http://www.vischeck.com/downloads/)にてオリジナル画像を加工。このソフトを利用して自分がデザインしたパンフレットをシミュレーションしてみれば、色覚バリアフリーになっているかが分かります。

A オリジナル画像



トリスチヌ修道院 / 明治31年にフランスから派遣された8人の修道女が設立。現在も修道女達が戒律を守って幻覚な生活を営んでいます。赤レンガの外観に真っ白なマリア像が美しいコントラストを見せています。

◎は2名様以上、その他は10名様以上で実施する出発日

6月							7月						
1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14	6	7	8	9	10	11	12
15	16	17	18	19	20	21	13	14	15	16	17	18	19
22	23	24	25	26	27	28	20	21	22	23	24	25	26
29	30						27	28	29	30	31		

8月							9月						
				1	2		1	2	3	4	5	6	
3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13
10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20
17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27
24	25	26	27	28	29	30	28	29	30				
31							31						

旅行代金 (お1人あたり) ※幼児取扱代金(3~5才・子供II)一律 28,800円

5名様で1室	51,800円	53,800円	53,800円	57,800円	59,800円	63,800円	67,800円	72,800円	73,800円	77,800円	80,800円	94,800円	105,800円
--------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	----------

B 第1色盲の人の見え方 (色盲全体の25%)



トリスチヌ修道院 / 明治31年にフランスから派遣された8人の修道女が設立。現在も修道女達が戒律を守って幻覚な生活を営んでいます。赤レンガの外観に真っ白なマリア像が美しいコントラストを見せています。

◎は2名様以上、その他は10名様以上で実施する出発日

6月							7月						
1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14	6	7	8	9	10	11	12
15	16	17	18	19	20	21	13	14	15	16	17	18	19
22	23	24	25	26	27	28	20	21	22	23	24	25	26
29	30						27	28	29	30	31		

8月							9月						
				1	2		1	2	3	4	5	6	
3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13
10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20
17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27
24	25	26	27	28	29	30	28	29	30				
31							31						

旅行代金 (お1人あたり) ※幼児取扱代金(3~5才・子供II)一律 28,800円

5名様で1室	51,800円	53,800円	53,800円	57,800円	59,800円	63,800円	67,800円	72,800円	73,800円	77,800円	80,800円	94,800円	105,800円
--------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	----------

C 第2色盲の人の見え方 (色盲全体の75%)



トリスチヌ修道院 / 明治31年にフランスから派遣された8人の修道女が設立。現在も修道女達が戒律を守って幻覚な生活を営んでいます。赤レンガの外観に真っ白なマリア像が美しいコントラストを見せています。

◎は2名様以上、その他は10名様以上で実施する出発日

6月							7月						
1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14	6	7	8	9	10	11	12
15	16	17	18	19	20	21	13	14	15	16	17	18	19
22	23	24	25	26	27	28	20	21	22	23	24	25	26
29	30						27	28	29	30	31		

8月							9月						
				1	2		1	2	3	4	5	6	
3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13
10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20
17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27
24	25	26	27	28	29	30	28	29	30				
31							31						

旅行代金 (お1人あたり) ※幼児取扱代金(3~5才・子供II)一律 28,800円

5名様で1室	51,800円	53,800円	53,800円	57,800円	59,800円	63,800円	67,800円	72,800円	73,800円	77,800円	80,800円	94,800円	105,800円
--------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	----------

D 第3色盲の人の見え方 (色盲全体の0.02%)



トリスチヌ修道院 / 明治31年にフランスから派遣された8人の修道女が設立。現在も修道女達が戒律を守って幻覚な生活を営んでいます。赤レンガの外観に真っ白なマリア像が美しいコントラストを見せています。

◎は2名様以上、その他は10名様以上で実施する出発日

6月							7月						
1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14	6	7	8	9	10	11	12
15	16	17	18	19	20	21	13	14	15	16	17	18	19
22	23	24	25	26	27	28	20	21	22	23	24	25	26
29	30						27	28	29	30	31		

8月							9月						
				1	2		1	2	3	4	5	6	
3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13
10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20
17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27
24	25	26	27	28	29	30	28	29	30				
31							31						

旅行代金 (お1人あたり) ※幼児取扱代金(3~5才・子供II)一律 28,800円

5名様で1室	51,800円	53,800円	53,800円	57,800円	59,800円	63,800円	67,800円	72,800円	73,800円	77,800円	80,800円	94,800円	105,800円
--------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	----------

オリジナル

ハワイ島めぐり	29,200(28,000)
マウイ島めぐり	29,200(28,000)
ドルフィン・ウォッチング	7,900(5,500)F
ナバテック・ディナー・クルーズ	15,600(9,300)
真珠湾、アリゾナ記念館とバイナッブル畑	5,700(4,500)F
マジック・オブ・ポリネシア	9,200(6,700)
星空鑑賞ツアー(マウナケア山頂)	18,400(-)F
星空鑑賞ツアー	15,900(14,700)
アトランティス・サブマリンドジョッピングツアー	19,600(15,900)
ルアウ・ショー(キング・カメハメハ・ホテル)	7,000(3,000)
ルアウ・ショー(アウトリガー・ワイコロア・ホテル)	7,900(4,000)

第2色盲の人の見え方

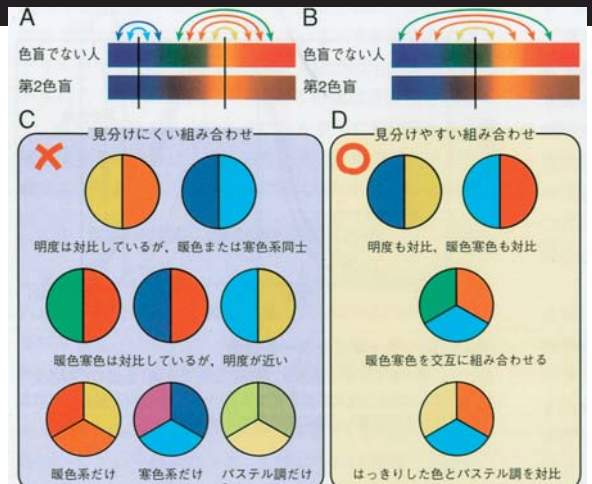
ハワイ島めぐり	29,200(28,000)
マウイ島めぐり	29,200(28,000)
ドルフィン・ウォッチング	7,900(5,500)F
ナバテック・ディナー・クルーズ	15,600(9,300)
真珠湾、アリゾナ記念館とバイナッブル畑	5,700(4,500)F
マジック・オブ・ポリネシア	9,200(6,700)
星空鑑賞ツアー(マウナケア山頂)	18,400(-)F
星空鑑賞ツアー	15,900(14,700)
アトランティス・サブマリンドジョッピングツアー	19,600(15,900)
ルアウ・ショー(キング・カメハメハ・ホテル)	7,000(3,000)
ルアウ・ショー(アウトリガー・ワイコロア・ホテル)	7,900(4,000)

海外旅行のパンフレットのオプションツアーの表

この表では、「マジック・オブ・ポリネシア」は、どちらの島のオプションツアーなのかがわかりません。このケースでは、背景の色調を変えること、境界線を太くするような配慮が必要です。

見やすい色の組み合わせ

- A:赤と緑の間や、青と紫の間で色を選ぶと、色盲の人には違いが分かりにくい。
 - B:かならず赤~緑(暖色系)と緑~青(寒色系)のそれぞれの側から交互に選ぶようにする。
 - 赤と緑、黄色と黄緑は見分けにくい。
 - 暖色と寒色であっても、同じような明るさの色が並ぶと見つらくなる。
 - 色合い(色相)だけでなく見た目の明るさを大きく変化させる。3色以上なら明るい色、中間の色、暗い色を組み合わせる。
 - 彩度の低い色どうしの組み合わせは避ける。原色どうしや、パステルカラーと原色の対比はよいが、パステルカラーどうしは避ける。
- 註:なおここで言う明るさは「目につく明るさ」のことである。たとえば緑色は赤色より倍近い視感度があるので、R,G,B=0%、50%、0%の緑は、R,G,B=100%、0%、0%の赤とほぼ同じ明るさに見える。R,G,B=0%、100%、0%の緑は、この赤よりもはるかに明るい。



色覚バリアフリーのまとめと、そのほかの注意点

発光ダイオード

- 長波長の赤（高輝度赤）のLEDの光は第1色盲の人には見えない
- 緑（長波長）、黄緑、黄色、オレンジ、赤のLEDは、赤緑色盲の人には同じ色にしか見えない
- 1つのランプの光の変化だけで情報を伝えない。
- 赤～緑のLEDを2色組み合わせず、青や白のLEDと組み合わせる

色の選び方

- 赤は濃い赤を使わず、朱色やオレンジを
- 黄色と黄緑は赤緑色盲の人にとっては同じ色、なるべく黄色を使い、黄緑は使わない
- 暗い緑は赤や茶色と間違える。しかし青みの強い緑なら間違えない
- 青に近い紫は青と区別できない。赤に寄った赤紫を使う
- 細い線や小さい文字には、黄色や白色を使わない
- 明るい黄色は白内障では白と混同

色の組み合わせ方

- 暖色系と寒色系、明るい色と暗い色、を対比させる
- パステル調の色どうしを組み合わせない。はっきりした色どうしか、はっきりした色とパステル調を対比させる
- ひとつの図版に使う色は、可能な限り少なく

視力低下への対応

本稿で解説したのは、先天色盲など視力低下を伴わない場合のバリアフリー対策。白内障、緑内障など視力低下や視野の狭窄を伴う人に対しては、小さな字や細かい図形を避け、図をあまり大きくしすぎないなど別の対策も必要

グラフや概念図

総論

- 区別が必要な情報を、色情報だけで識別させない
- 明度や形状の違いや文字・記号を併用して冗長性を与え、色に頼らなくても情報が得られるように
- 白黒でも意味が通じるように図をデザインし、そのあとで「装飾」として色をつける

各論

- シンボルは同じ形で色だけ変えるのではなく、形を変えて色は少なく
- 線は実線どうして色だけを変える

- だけでなく、実線、点線、波線など様々な線種と色とを組み合わせる
- 色情報を載せる線は太く、シンボルは大きく
- 塗り分けには、色だけでなくハッチングを併用
- 色相の差でなく明度の差を利用した塗り分けを
- 輪郭線や境界線で、塗り分けの境を強調
- 図と凡例という離れた2点間での色の照合を省くため、図の脇に凡例をつけず、図中に直接書き込む

文字に色をつけるとき

- 背景と文字の間にはっきりした明度差をつける（色相の差ではダメ）
- 線の細い明朝体でなく、線の太いゴシック体を使う
- 色だけでなく、書体（フォント）、文字、イタリック、傍点、下線、囲み枠など、形の変化を併用

図の解説の仕方

- 「色が見分けられれば色名も分かるはずだ」と考えない
- 色名だけで対象物を指し示さない。形態を描写したり、ポインターで直接指し示す
- 凡例にはなるべく色名を記入
- 赤いレーザーポインターは見づらい。緑のレーザーポインターを

講義や授業で

- クラスには必ず色盲がいる

黒板

- 赤いチョークはほとんど見えない人がいる。なるべく使わない
- 青や緑も暗く見にくい、白と黄色以外はなるべく使わない
- 色分けには文字や記号、ハッチング、縁取りを併用

ホワイトボード

- 黒、緑、赤のマーカーは見分けが困難。青を優先して使う

色の名前

- 色盲の人は、色は見分けられても色の名前が分からないことがある
- 色を使う際は生徒に色名を告げる
- 生徒に色名を答えさせる質問をしない（特に大勢の前では絶対に）
- 作業などを指示する際に対象物を色名だけで示さない。場所や形も指定する
- ワークシート等を指示と違う色で塗ってきても減点しない